

## 🎹 第9回通常総会について 🎹 変更のお知らせ

5月16日に予定しておりました第9回通常総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での会議を取り止め、**書面での実施**とさせていただきます。会員の皆様には、本会報とともに総会議案書と、議決を記入する返信用ハガキをお届けしております。ご記入いただいたハガキの返信をもちまして、郵送での審議とさせていただきます。  
総会議案書をご確認のうえ、5月15日までに、同封のハガキをご返送ください。よろしくお願い申し上げます。

## 🎹 チェンバロの日！2020 ～ チェンバロ オリンピア ～ 🎹 延期のお知らせ

準備を進めてまいりました「チェンバロの日！2020」を、1年延期とさせていただきます。来年5月に、できる限り同じメンバーで、仕切り直しをして新鮮な気持ちで楽しんでいただける場を作りたいと考えております。

毎年さまざまなテーマからチェンバロの魅力を引き出してきた「チェンバロの日！」9回目は【チェンバロ オリンピア】。

ヨーロッパ各地で愛奏されたチェンバロ曲、国を越え活躍した人々や楽器のお話、J.S.バッハの名曲ゴルトベルク変奏曲 BWV 988 のリレーコンサート etc.・・・を企画していました。

残念ながら1年延期となりましたが、今年開催を予定していた企画の一部をご紹介します。来年へどうぞご期待ください！



### ●コンサート

当協会初代会長でもある、**小林道夫氏**によるオールバッハプログラム「**バッハの世界**」と、若手奏者二人による **辛川太一 × 後藤早恵** 共著「**ヨーロッパ・チェンバロ事典**」。

### ●講座

**渡邊温子氏**による講演「**故国をはなれて活躍した音楽家たち**」、故国をはなれ異国のひと々と競い合う活躍をした音楽家を、その土地の風土・文化などとともにご紹介します。**渡邊順生氏**による講演と演奏「**ルッカースの世界 ～ ヴァージナル・ブックからフランソワ・クープランまで ～**」、ルッカース・チェンバロの魅力をお話と演奏の両方からお楽しみいただけます。

### ●リレーコンサート【ゴルトベルク変奏曲 リレーコンサート】

2018年に大好評だった【**フランソワ・クープラン 全曲リレーコンサート**】、あの感動を再び…と企画しました。1人で全曲弾くのは大変ですが、みんなで弾けば怖くない！小林道夫氏の奏でるアリアに続き、みんなで30の変奏曲を完走(完奏)！

### ●フリーコンサート

愛好家の方々の嗜好を凝らしたプログラム、プロを目指す学生さんの熱い演奏、聴きごたえも十分です。「開演時間が早すぎて友達を呼べない！」という前年度参加者からの声にお応えし、開演時間を遅くしています。

## ●ミニチュアチェンバロを作ろう

ペーパークラフトで作る自分だけのチェンバロ。チェンバロ工房スタッフの指導のもと、楽器の構造を学びながら自分への素敵なお土産を作りましょう。お子様も大人も楽しめる企画です。

そのほか、さまざまなチェンバロの試奏、アカデミアとユニヴァーサルによる楽譜・CD等割引販売、出演者や協会関係の物販コーナー、大人気チェンバロカフェコーナー、懇親会(チケット購入者無料)など、チェンバロを愛する皆様にお楽しみいただける予定です。

今年予定されていた内容の詳細を下記ホームページにてご覧いただけます。来年の「チェンバロの日！」についても、随時お知らせいたします。ぜひ覗いてみてください！

[ 協会ホームページ ] <https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com>



## 🎹 会長コラム 🎹

本年5月でもって、2期5年間、務めさせていただきました会長職を退任いたします。会員諸氏ならびに、とりわけ運営委員としてお仕事をなさっていた方々に、感謝しております。協会の運営はこのような方々のボランティアで成り立っていることを、忘れてはならないと思います。

5年間、私が取り組んだことはそんなに多くありません。一番大きなことは、チェンバロ協会年報を刊行できたことでしょうか。2020年5月に、すでに第4号まで刊行しております。今後、刊行を継続していただけるよう望んでおります。

一般会員の方にはあまり見えてこない側面ではあるのですが、運営委員会の体制をかなり縮減し、効率化を図りました。例えば、5年前は年12回開催されていた運営委員会は、現在では4回になりました。委員の方の時間や協会の会計にとって、メリットとなりました。またボランティアといっても、これは無償奉仕を意味するものではありませんので、協会の財政状況と持続的な発展ができる範囲で、改善を図りました。音楽家にとって時間は大切に、ありていへれば、時間=金銭であります。その時間を使っていたらうで、なんらかの金銭的な措置を考えることは大切でしょう。

2年後には協会設立10周年となります。この年の「チェンバロの日」をどうするかは、今後検討していただきたいと思いますが、「チェンバロ・フォルテピアノ・キーワード事典」は準備が進んでいて、春秋社から出版することになっています。どうぞ、お楽しみに。会員の方には1冊、無料配布となります。

最後になりましたが、今年度からは岡田龍之介氏のもと、チェンバロ協会がさらに発展することを祈願しております。



久保田 慶一

## 🎹 お知らせ

### 次期会長選挙の結果について

日本チェンバロ協会次期会長選挙において、候補者の推薦を募ったところ、岡田龍之介氏に対する推薦書一通を受領しました。よって、選挙管理規定第3条第5項の規定に基づき、岡田氏を当選者とします。

岡田氏は5月16日の総会にて、次期会長に就任します。

### 会報について

前号の会報で、今号より会報はPDFでご覧いただき、紙媒体ご希望の場合は事務局までお知らせいただくご案内をさせていただきましたが、5月の総会で会報の形式・存続につきまして諮ることになり、それまでは紙媒体で郵送させていただくことになりました。

今後会報がPDFになった場合、紙媒体でご希望の方で、まだ事務局までご連絡いただいていない方はお知らせください。

## 🐼 例会報告 🐼

第42回例会（2019年度第4回例会）

### 【再・再考フレスコバルディ～そのインスピレーションの源泉へ～】

2020.1.12 桐朋学園大学音楽学部 調布キャンパス 222教室

講師：渡邊孝

第4回例会は、最先端のフレスコバルディ研究に触れるという非常に有意義な機会となりました。

「インスピレーションの源泉を紐解く」という命題のもと、まずはフレスコバルディの創作活動に影響を与えた諸要素（生い立ち、環境、パトロンとの関係、印刷技術の問題など）と、先達と同時代人による音楽および記述について解説が為されました。そして、講師自身が訳したトッカータ集の序文およびチェンバロを使った実演を通して、様々な‘源泉’がどのようにフレスコバルディの中で結実していくのかが考察されました。

時折ユーモアを交えた講師の話しぶりによって会場は温かい雰囲気にもまれ、あっという間に3時間がたちました。講師の渡邊孝さん、聴講いただいた皆様、また桐朋学園大学古楽器科をはじめご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

#### <聴講者から>

モダンピアノの音楽を中心に18年間勉強してきた私ですが、今でこそチェンバロ音楽に没入しつつあるのは、偉大な大バッハ先生ともう1人、フレスコバルディの音楽に出会ったから、と言っても過言ではありません。

大学1年でチェンバロと出会い、その魅力に惹かれつつあった私にとって、初めてフレスコバルディの音楽に触れた時は衝撃でした。技巧的、音楽的な難しさはさることながら、それまでチェンバロ音楽といえばバッハやクーラン、スカルラッティの音楽しか馴染みがなかった耳に、一際新鮮に入

り込んできたのです。「この新鮮さはどこから生まれたのだろう」という興味が、知らず知らずのうちに湧いてきていました。

今回の講座で、今まで全く知らなかったフレスコバルディの生い立ちや、そのオリジナリティがどこから来たのか、そしてその音楽をどう深く読んで演奏していくか、といったことを渡邊孝先生の導きによって深く解説していただき、また私自身も深く考えるきっかけとなりました。渡邊孝先生はフレスコバルディ自身を取り巻く様々な人物、生まれ育ったフェラーラという街、そして当時の印刷技術などの産業、今となっては二度と同じ生活を送ることのできない生活環境（当たり前ですが）の中で、彼がどのように音楽に触れ、そして今なお聴く者を虜にする作品たちを生み出していったのか、ということ詳しく解説してくださり、今も興味は尽きません。

私自身もフレスコバルディの作品に何曲か取り組み、トッカータ集の序文も読みましたが、彼が意図したこと、思い描いた音楽をいかに忠実に再現するか、といったことに常に悩まされていました。それは今でも変わりませんが、講座を聞き終えて、これは全ての音楽に共通することではありますが、彼が遺したものを熟読し、常に「再考」し続けることが、少しでも彼の音楽に近づくことができる道なのかな、と思えました。

非常に濃く充実した時間を下さった渡邊孝先生、そしてお誘いくださった渡邊順生先生、チェンバロ協会の皆様、本当にありがとうございました。  
(酒井悠登)



【みんなで作るフリーコンサート in 松本記念音楽迎賓館】

2020.2.16 松本記念音楽迎賓館

講師：上園未佳

毎年恒例のフリーコンサート。今回はソロ4名とアンサンブル1組がいずれも気合の入ったプログラムを披露され、非常に充実したコンサートになりました。終了後には上園先生から熱い講評をいただき、参加者のみならずスタッフも感激いたしました。また、朝早くから楽器の調律&調整をしてくださった安達正浩様にも心より御礼申し上げます。

演奏曲目は次の通りです。(敬称略)

1. 大藤莞爾  
D.スカルラッチェ：ソナタ K.206、F.クーブラン：クラヴサン奏法より プレリュード 第5番、J.ハイドン：ソナタ Hob:XVI:46 より 第1楽章
2. 古家岳  
J.S.バッハ：パルティータ 第2番 八短調 BWV826
3. ウィットマー・カリッサ真実  
J.S.バッハ：平均律クラヴィア曲集第1巻 木短調 BWV855、平均律クラヴィア曲集第2巻 変イ長調 BWV886、D.スカルラッチェ：ソナタ へ長調 K.367 / 木短調 K.394
4. 中西みなと  
D.ブクステフーデ：組曲 へ長調 BuxWV238 / 組曲 八長調 BuxWV230
5. 松本花実（フラウト・トラヴェルソ）・加藤友来（チェンバロ）  
J.S.バッハ：フルート・ソナタ 木長調 BWV1035

<参加者感想>

今回のフリーコンサートは参加者5組のごぞんまりとした雰囲気でしたが、ブクステフーデからハイドンまでの100年間に皆さんの素敵な演奏で旅することができま

した。僕はF.クーブラン、D.スカルラッチェとJ.ハイドンを演奏しました。上園未佳先生から貴重なアドバイスを頂くことができ、とても勉強になりました。（大藤）

組曲を通して弾いたのは今回が初めてで、本番は何箇所間違えて苦しくなりましたが、最後まで弾けたときの達成感は今も残っています。また、「チェンバロや、今弾いている曲を好きになったきっかけは十人十色。そのきっかけは自信につながるので、演奏するときに思い出してください。テクニックはそれからです。」という総評が特に響きました。個別講評も頂き、自分の目指す演奏により近づける気がしています。（古家）

松本記念音楽迎賓館にて2段鍵盤チェンバロを弾けるという素敵な場所と楽器に惹かれて、演奏申込みさせていただきました。若い年齢層の演奏者の方が多いことにも驚きましたが、古楽演奏に熱心に取り組んでいることを知ることが出来ました。当日は事務局の方々も大変親切にくださり、上園先生からは最後に可愛いお花まで頂戴してしまいました。

練習不足な点などをご指摘いただき反省点もありましたが、楽しく演奏出来たので素敵な1日となりました。どうもありがとうございました。（中西）

今回、フリーコンサートに参加させていただき多くの気づきを得ました。やはり本番では、普段練習の際には気づけない様々なことが浮き彫りになります。自分の理想とする演奏と現実とのギャップを改めて感じました。演奏後には上園先生より講評も頂きとても学び多き1日となりました。（加藤）



例会のお問い合わせは、例会係まで

[メール] cembalo\_events@yahoo.co.jp  
[協会ホームページ] <https://japanharpsichordsociety.jimdo.com>

例会の企画案を随時募集中！

協会ホームページの「お問い合わせ」から、「例会について ご予約・お問い合わせ」をご参照ください。

## 追悼

昨年末、ベルギーのチェンバロ奏者、ロベール・コーネン氏が亡くなりました。当協会では、第4回例会に講師としてお越しいただきました。謹んで哀悼の意を表します。

コーネン氏のお弟子さんでいらっしゃる、第4回例会でご協力くださった、チェンバロ奏者の副嶋恭子氏に追悼文をお願いいたしました。

### 【ロベール・コーネン先生を偲んで】

ベルギーのチェンバリスト、オルガニストであられたロベール・コーネン先生が2019年12月26日、癌のため87年の生涯を閉じました。

コーネン先生はクイケン・アンサンブルの一員として、また数々の音楽祭への参加や通奏低音奏者として度々来日され、懐の深い演奏を聞かせてくれました。

先生はモンス音楽院とブリュッセル音楽院で教鞭を取り、日本人の弟子がたくさんいます。留学時には右も左もわからない状態の弟子たちに色々な面で気を配ってくれ、また先生の演奏会があると車で連れて行ってくれました。時には先生所有のオリジナルのデュルケン(1755)も一緒に！弟子の演奏会の時には、先生がそのデュルケンを運んで調律をしてくれました。

2009年と2013年には我が家で先生のマスタークラスを行いました。レッスンでは自ら弾いてくださるので、先生の息づかいを身近に感じられたことは参加者にとって得がたい経験だったと思います。私が一番印象に残っているのは、ある受講生がスヴェーリンクの「ファンタジア・クロマチカ」を弾いた時、ひととおりアドバイスをしたところで「最後にもう1度、この曲を初めて聴く人が『いい曲だ』と思えるように弾いてください」とおっしゃったことです。このように短い言葉で「演奏とはどういうことか」を教えてくださいました。しかし、留学中のレッスンでは細かく指導してくれることもありました。F.クープランの「神秘 La Mysterieuse (第25オールドル)」では、1小節にどれだけの時間をかけたことでしょうか。テンポの遅い曲ではひとつひとつの音の表情を丁寧に教えてくれ、テンポの速い曲では先生が飛んだり跳ねたりして躍動感を示してくれました。

先生はお話がとても好きでユーモアあふれる方でした。留学中のレッスンではしばしば話が脱線したこともあります。特に大好きだったワインの話になると止まらない！第4回例会でも興味深いお話がたくさんありましたが、とめどなく話すので通訳が追いつかなかったのを覚えています。

2000年ごろには17世紀オリジナルフレンチ (CLF おそらく Clément Lefèvre c.1650) を手に入れられ、修復に長い時間がかかりましたが2018年によやく終わり、「やっと出来上がった。これから録音もするんだ。」と嬉しそうに書かれたメールが届きました。それも無事にやり終え、穏やかに旅立たれたそうです。

「音楽とはどういうものか」ということを大きな愛をもって教えてくださいました。本当にありがとうございました。

副嶋 恭子



[ 第4回例会 ]

2013年9月8日  
スペース“調”にて

第4回例会レポートを、日本チェンバロ協会ホームページ内の、会員専用ページでご覧いただけます。ぜひご覧ください。

→ <https://japanharpsichordsociety.jimdofree.com/会員専用ページ/>

## 年報編集委員会よりお知らせ

2017年に創刊された日本チェンバロ協会の『年報』は、現在第4号の発行準備が進んでおります。在庫切れだった創刊号を2020年1月に増刷し、また第2号・第3号も例会や「チェンバロの日！」の会場販売用にご用意しております。会員の皆様方におかれましては、この大変充実した内容の定期刊行物をぜひ、会員以外でご興味のある方、学校や図書館にお勤めの方などに広めていただければ幸いに存じます。

創刊号では日本のチェンバロ演奏家の草分けのひとりであり、協会の第1期・第2期会長をつとめられた小林道夫氏へのインタビュー、前年に生誕400年、発行年に没後350年を迎えたドイツの作曲家ヨハン・ヤーコブ・フローベルガーの受容史・研究史・演奏解釈などを特集として掲載。

第2号では「チェンバロ復興と今」と題した特集で、2017年5月の「チェンバロの日！」に行われた座談会「チェンバロ復興と今——楽器と音楽から」の採録とワグネル・ランドフスカに関する研究論文を、また研究レポートとして、18世紀末に刊行された最初のフォルテピアノ教則本であるJ.P.ミルヒマイアー著『正しいピアノ・フォルテ演奏法』の日本語訳（前半部）と記譜法に関する講座のレポートを掲載。

第3号ではフランソワ・クーブランを特集。2018年5月の「チェンバロの日！」に行われた関根敏子氏の講演「クーブラン時代のパリの地図から見る音楽事情」の採録、小穴明子氏の論文「標題付き描写音楽の思想的背景を探る——美学思想史の観点から」を、そして研究レポートとして、第2号にひきつづき、J.P.ミルヒマイアー著『正しいピアノ・フォルテ演奏法』の日本語訳の後半部を掲載。

各号はその他、研究論文、書評、楽譜紹介、アトリエ訪問、海外レポート、博物館レポート、会員の録音物紹介など、チェンバロやフォルテピアノに関する情報などで構成されています。お問い合わせはアルテスパブリッシング、または日本チェンバロ協会までお願いします。（了）



## 事務局からのお知らせ

事務局：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com

### < 会員の更新手続き >

- \* お申し出がない限り、毎年自動継続となります。なるべく3～5月中の更新手続き（会費納入）をお願いいたします。
- \* 年会費の入金確認ができ次第、新しい会員証を送付いたします。
- \* 協会ホームページ内「会員専用ページ」の閲覧に必要なパスワードは、毎年更新しており、その年度の年会費をお振込みくださった方に個別にお知らせしています。
- \* 前年度分も未納の方は、あわせてお振込みください。
- \* 年会費のお支払い状況が不明な方は、事務局までお問い合わせください。
- \* 例会やイベント会場でも更新手続きを受け付けています。

【年会費】 会員：6,000円（学生：3,000円） サポーター：3,000円 法人・団体会員：10,000円

### < 退会手続き >

- \* 退会希望の旨を必ず事務局までご一報ください。
- \* 年会費の未納は退会手続にはなりませんので、ご注意ください。年会費が未納でも、お申し出のない限り自動継続となります。（ただし、2年間の未納が続くと3年目に自動退会。その場合も未納分の支払い義務は消えません）

## < 諸変更について >

メールアドレスや住所など連絡先の変更、会員区分の変更がある場合には事務局までご連絡下さい。

## < 賛助金の募集 >

より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。  
下記口座へお振込みの際は、その旨事務局までご一報お願いいたします。

【賛助金】 会員・学生会員・サポーター：一口 3,000 円～ 法人・団体会員：一口 10,000 円～

## < 年会費・賛助金お振込み先 >

### ゆうちょ銀行

名義：日本チェンバロ協会  
記号：10090 番号：07246611

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる場合

店名：〇〇八（ゼロゼロ八チ） 店番：008  
預金種目：普通預金 口座番号：0724661

\* 振込用紙の送付は行っておりません。 \* 手数料はご負担願います。

## < 後援の申請について > 対象：会員区分が「会員」の方

\* 会員の方は、ご自身が出演される演奏会のチラシに「後援：日本チェンバロ協会」と入れることができます。  
後援名義使用をご希望の場合は、(1) チラシを作成（事前の申請は不要）、(2) 演奏会までに、出来上がったチラシのデータ（後援を記載したチラシ）を、日本チェンバロ協会事務局メールアドレス宛にお送りください。 ※ メールの件名に「後援・チラシデータ」と明記してください。

データ送信先 → [japan.harpsichord.society.jp@gmail.com](mailto:japan.harpsichord.society.jp@gmail.com)

メールでの送信が難しい場合は、チラシを1部、日本チェンバロ協会事務局までご郵送ください。

郵送先 → 日本チェンバロ協会事務局 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階

- \* チラシを作成される前に、必ずご自身の年会費の納入状況をご確認ください。納入状況が不明な場合は、「年会費納入状況の確認」とタイトルを付け、お名前を明記の上、事務局にメールをお送りください。確認後ご連絡いたします。
- \* 年会費納入未納の方、滞納されている方、また滞納などの理由で会員の資格を失った方は後援をつけられません。規約に反した場合、規約に則り対処させていただきます。
- \* 後援記載は会員の方のみの特典です。サポーターの方は協会の後援を得ることはできません。サポーターの方が後援記載をご希望の場合は、会員区分を変更していただく必要があります。事務局までご相談ください。
- \* 後援チラシデータを事務局にお送りいただいただけで、ホームページ、Facebook等SNSでの宣伝告知依頼とはなりません。別途、広報コンサート情報担当へご連絡ください。

SNS 宣伝告知依頼 → 広報コンサート情報担当 [concertinfo\\_@yahoo.co.jp](mailto:concertinfo_@yahoo.co.jp)

## < その他 >

- \* 最新のメールマガジン（第101号）を受信できていらっしゃらない方は、ご連絡ください。
- \* 協会の運営に携わってくださる方を募集しております！詳細は、事務局へお気軽にお問い合わせください。



日本チェンバロ協会  
Japan Harpsichord Society

会報第14号 2020年4月15日発行 発行人：久保田慶一  
編集：石川陽子、流尾真衣、山本庸子

### 日本チェンバロ協会事務局

住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階  
電話：080-9661-8196（火曜日10～17時に対応）  
メール：[japan.harpsichord.society.jp@gmail.com](mailto:japan.harpsichord.society.jp@gmail.com)  
ホームページ：<http://japanharpsichordsociety.jimdo.com>